番号	コード										名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名		有形・無形		現存・非現存		大分類		中分類				和暦	西暦		
24	2	平取町	1	有形	3	不明・その他	1	産業	5	工・鉱業	砂金ルート	富川～鵡川上流	明治20頃	1887	佐留太(門別町富川)から沙流川を遡り、仁世宇に向かい、山越えして鵡川流域上流に向かうルート。 豊富な砂金鉱床がトマム川支流に発見され、幾寅を中心に昭和初めまで採取された。	日高町史
25	2	平取町	2	無形	3	不明・その他	1	産業	5	工・鉱業	日東鉱業 （クローム鉱山）	ニセウ	大正6	1917	大正6(1917)、ニセウに渡辺新蔵が所有する試掘権を買収し本格事業を開始したのが始まり。 大正8(1919)、有望豊富な大鉱脈を発見し日東クローム鉱業株式会社を創立、ニセウ河口までレールを敷設し、トロッコによる運搬を計画していたが、大洪水、第一次世界大戦後の財界不振により旧山した。 昭和4(1929)、後藤合名会社に改組して再開し、昭和6(1931)には新鉱を発見し、軍需に応じて発展したが、昭和17(1942)には日本製錬株式会社に譲渡された。	平取町史
26	2	平取町	1	有形	2	非現存	1	産業	8	その他陸運	平取町の駅逓所	平取	明治37～	1904～	19世紀の初頭、江戸幕府が蝦夷地を直轄した時代に、会所や運上屋が整備され、逓送、人馬継立、宿泊などの駅逓業務を行ってきたが、開拓使時代以降は駅逓所が設けられ、取扱人をおいて、手当てと官馬を支給し、旅行者や開拓移民の拠点として、また、各地域間の通信業務を担当してきた。 明治37（1904）に平取駅逓所が置かれ、官馬7頭が配置されその業務にあたった。 さらに、沙流川奥地への開発とともに明治41(1908)には長知内駅逓所が、明治42(1909)には岩知志駅逓所が逐次設けられ、官馬が配置され交通に供された。	平取町史
27	2	平取町	1	有形	2	非現存	1	産業	9	水運・海運	平取町の渡船場	―	明治30～	1897～	当時、平取～富川間は橋梁などは一本もなく、旅行者のために明治30(1897)に平取渡船場が、明治34（1901）には荷負渡船場、長知内渡船場が設置され、人馬だけは平取～池売付近までいけるようになった。 また、川向に渡るため、明治35(1902）に荷菜渡船場が、明治36(1903)に紫雲古津渡船場などが設けられた。	平取町史
28	2	平取町	1	有形	1	現存	2	宗教	10	寺社等	義経神社	平取	不明	不明	寛政3（1791）に、沙流場所請負人山田文右衛門が建立したというものと、寛政11（1799）あるいは享和2（1802）に幕吏近藤重蔵がアイヌに義経信仰があることを知ってハヨピラに一廟を建てさせたものが始まりともいわれる。文右衛門あるいは重蔵の社を建立した最初の地は新冠の判官館城跡で、後に今の平取に移したものとも伝えられているが定かでない。 明治34(1901)の大水害により、ハヨピラに建立したものを、現在の高台「ホウスマウンナ」に社殿を増築して遷座し、現在の社殿は大正8(1919)に造営したものである。祭神、源義経。	史跡と名勝、平取町史
29	2	平取町	1	有形	1	現存	2	宗教	11	碑・像等	義経神社の義経像	ホンスマウンナ	寛政11	1799	蝦夷地を視察した近藤重蔵が江戸神田在住の大仏工　法橋善啓に作らせた。 高さ33cm余りで甲冑を身にまとい両肘を張って岩に腰かけた姿をしており、重蔵に似せて作らせたとも言われる。 比企可満と謀り、アイヌの神である「オキクルミ」の伝説と「義経伝説」を利用して、アイヌ民族の操縦上の政策として行ったといわれる。 沙流川の洪水に二度流されたが、その度に下流の海岸や川岸で発見されたことから、今ではあらゆる災難を防ぐ守護神として奉られている。	史跡と名勝、門別町史、平取百年記念史跡歴史の散歩道、日高の山道等について
30	2	平取町	1	有形	1	現存	5	伝統	11	碑・像等	オキクルミカムイ像	ホンスマウンナ	昭和10	1935	アイヌの最高神といわれているオキクルミの像で、室蘭市の立雲寺住職林舜祥が建立。	史跡と名勝
31	2	平取町	1	有形	1	現存	5	伝統	11	碑・像等	歴史の散歩道の記念碑	二風谷	平成11	1999	平取町が明治32（１８９９）に門別戸長役場から平取外八ヶ村戸長役場として独立した後100年を記念して、教育、文化、福祉などの分野で活躍した偉人９人を讃えるために、二風谷湖の管理用道路沿いに記念碑を建てたもの。	平取町百年記念史跡　歴史の散歩道
32	2	平取町	1	有形	1	現存	5	伝統	12	史跡等	カンカン2遺跡	二風谷	―	―	10世紀半ばから11世紀にかけて築造された溝が巡る盛土遺構。盛土の表面からは直刀や青銅製碗等豊富な金属器と擦文土器が出土した。	平取町埋蔵文化財
33	2	平取町	1	有形	1	現存	5	伝統	12	史跡等	ユオイチャシ跡	二風谷	―	―	沙流川とユオイ沢に挟まれた台地に作られた丘先式チャシ跡。 主体部は造田工事によって破壊されていたが、二重の弧状壕とチャシ内の周縁部に柵列跡が発見された。	平取町埋蔵文化財
34	2	平取町	1	有形	1	現存	5	伝統	12	史跡等	ポロモイチャシ跡	二風谷	―	―	二風谷小学校より沙流川に沿ってやや下手に歩いた崖上に所在し、「ポンニナツミのチャシ跡」とも呼ばれる。 沙流川に面して突き出している崖を利用した典型的な面崖式チャシ跡で崖以外の部分を内側より見て外反する一本の弧状の溝によって区切られている。 なお、溝跡は、現地形より見て明確に認められ、岸の突端部より溝の最も張り出した部分までの距離が約7.5m、溝の長さが約31mである。	平取町史
35	2	平取町	1	有形	1	現存	5	伝統	15	人物	萱野茂	二風谷	大正15	1926	平取町二風谷生まれで、昭和28（1953）頃からアイヌ文化の伝承保存に努め、古老からユーカラ等の聞取り、録音、民具の収集活動を行い、昭和47（1972）には二風谷アイヌ文化資料館を設立した。 昭和50（1975）には平取町議となり、昭和58（1983）、子供達を対象にしたアイヌ語教室をはじめて先駆的役割を果たした。 平成6（1994）には、アイヌ民族初の国会議員として参院議員となり、アイヌ新法の制定等に貢献した。アイヌ文化に関する著作を数多く発刊し、菊池寛賞、吉川英治賞など多くの賞を受賞している。 平成12（2000）、北海道功労賞を受賞し、平取町名誉町民となる。	北の生活文庫1北海道民のなりたち、各社新聞記事
36	2	平取町	1	有形	2	非現存	2	宗教	15	人物	ジョン・バチェラー	―	安政元～昭和19	1854～1944	明治10（1877）にイギリスから来道した英国聖公会（アングリカン・チャーチ）の宣教師。 明治12（1879）、聖公会北海道伝道の先駆者ウォルター・デニングとともにはじめて平取を訪れ、アイヌ語を学ぶ。 明治13（1880）、再来し日高地方の伝導を任せられるが、その後、飲酒を禁じたことなどにより住民から反感を受け、明治17(1884)に平取での伝道を一時中止したが、明治24(1891)、上平取に聖公会を開いてからは特にアイヌ婦人に布教活動を行った。 また、布教活動のかたわらアイヌ文化の調査研究に従事し、アイヌ語辞書など多数を著した。 さらには、大正11（1922）、平取に保育園を設け、経営の行き詰まった昭和3（1928）まで維持したが、昭和23（1948）に結成された「バチェラー伝道会」がその保育園を記念し、昭和24に平取村消防会館を買い取り保育所を開設した。 また、明治14(1881)以降、数回に渡って新冠町を訪れ、明治31(1898)に聖公会新冠(高江)講義所を設立し、キリスト教の布教とともに、アイヌ児童への教育を行った。 第2次世界大戦の勃発により、アイヌ民族の養女八重子を残して帰国し、故郷で没した。	平取町史、続新冠町史、北海道歴史人物辞典

番号	コード										名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名		有形・無形		現存・非現存		大分類		中分類				和暦	西暦		
37	2	平取町	1	有形	2	非現存	3	生活	15	人物	ニール・ゴードン・マンロー	―	文久3～ 昭和17	1863～ 1942	イギリス・スコットランド出身の医師で人類学者。 明治25(1892)に来日し、横浜ゼネラル・ホスピタル病院や軽井沢サナトリウムを歴任する傍ら、英国王立人類学研究所の通信員として考古学の研究に従事する。 明治38(1905)に日本に帰化し、昭和5(1930)から翌年にかけて、アイヌ民族研究のために二風谷に滞在し、昭和7(1932)から永住した。イヨマンテの研究のかたわら、アイヌの衛生思想の向上と、地域住民への無料診療を施す。 昭和17(1942)、病気により没する。 旧邸は北海道大学北方文化研究室となり、その前庭には顕彰碑が建立された。	平取町史、スズランの咲く町平取、平取町百年記念史跡歴史の道、鹿児島市立ふるさと考古歴史館HP、北海道歴史人物辞典
38	2	平取町	1	有形	2	非現存	3	生活	15	人物	エディース・メアリー・ ブライアント	―	不明	不明	明治期に平取で活躍した伝導看護婦。ロンドンの病院で看護婦をしていたが、ジョン・バチラーに頼まれて明治30(1897)に平取に来たあと、義経神社下の「ホスピタル・レスツ」で住民の治療に当たりながら、キリスト教を広めるため活動した。 延べ13年間の滞在期間中、振内に私塾を設けて子弟教育に尽くしたりして、慈愛に満ちた精神で住民のために力を注いだ。 明治31(1898)の沙流川大洪水の際には、被災した人達を献身的に世話をして、深く信頼される。 明治45(1912)にいったんイギリスの郷里に戻ったが、大正3(1914)には再び平取町を訪れ、育英事業に専念したが、健康を害したため、大正6(1917)に帰国し、その地で没した。	平取町百年記念史跡　歴史の散歩道
39	2	平取町	1	有形	2	非現存	4	教育	15	人物	金田一京助	―	明治15～ 昭和46	1882～ 1971	言語学者、国語国文学者で、アイヌの口承文芸「ユカラ」を世界的に有名にした。 岩手県盛岡市の出身で、明治39(1906)、東京帝国大学文学部言語学科在学中に北海道をまわり、ユーカラに接した。、沙流川筋のアイヌからも資料を集め、教えを請うことが多く、その歌碑が萱野茂二風谷アイヌ資料館横に立っている。 昭和29(1954)、文化勲章を受章。	平取町百年記念史跡　歴史の散歩道、金田一京助HP、北海道歴史人物辞典
40	2	平取町	1	有形	2	非現存	5	伝統	15	人物	鍋沢ワカルパ		安政年間 ～大正2	1850後半 ～1913	ユーカラクル（詩曲を伝承する人）の家柄に生まれ、中年の頃盲目となったが、12,3代前からの全系図をはじめ、近郷近在数10家の家系と一人一人の昔話から、国後、釧路の名門の系図まで暗記しており、大正2（1913）には金田一京介宅に滞在して、14編2万行のユーカラと10余り曲のカムイユーカラなどを伝え、金田一のアイヌ民族に関する総合知識の起訴を形づくった。 当時、平取町に蔓延していたチフスの祈祷をするために帰郷し、自らも感染して没した。	北海道歴史人物辞典
41	2	平取町	1	有形	2	非現存	5	伝統	15	人物	二谷一太郎	二風谷	明治25～ 昭和43	1892～ 1968	アイヌ民俗伝承者で、アイヌ名はウパレッテといい、晩年には民族文化の保存と記録に積極的に協力し、多数の記録映画などに出演した。萱野茂が収録した言葉録音テープは、アイヌ民族の教典的な価値があるものとなっている。	北海道歴史人物辞典
42	2	平取町	1	有形	2	非現存	5	伝統	15	人物	二谷国松	二風谷	明治21～ 昭和35	1888～ 1960	アイヌ名ニスレックル。沙流随一の古事儀礼に通じていた人といわれ、特に祭詞・儀礼に豊かな知識をもっていた。 金田一京助の弟子久保寺逸彦の知識情報提供者として協力した。	北海道歴史人物辞典
43	2	平取町	1	有形	2	非現存	5	伝統	15	人物	平村ペンリウク	―	天保4～ 明治36	1833～ 1903	幕末から明治にかけて日高沙流川筋の実権を握っていたアイヌの人で、、早くからアイヌ民族の教育の必要性を認め、明治12（1879）ころからバチラーと親交があり、そのアイヌ語の先生となった。 寛政11（1799）に近藤重蔵が寄進した平取町義経神社の御神体である源義経像を現在地に遷祀し、宮守として晩年を送ったことから、境内に頌徳碑が建立された。	北海道歴史人物辞典
44	2	平取町	1	有形	2	非現存	99	その他	15	人物	違星北斗（いぼしほくと）	―	明治35～ 昭和4	1902～ 1929	アイヌ民族の歌人で余市町生まれ。歌人、文人を目指しながらも、同胞の生活向上のための社会活動に貢献した。 昭和の初めに平取町に滞在し、バチラー幼稚園で働きながら小樽新聞に短歌などの投稿を続けた。 昭和3（1928）、売薬行商となって各地をさすらったが、結核のため29歳で早逝。 昭和5(1930)に遺歌文集「コタン」が出版された。民族差別の激しい怒り、絶望感を嘆く中にも、アイヌとして自負心を表出した作品が多い。歌碑が二風谷小学校の前提に建てられている。	平取町百年記念史跡　歴史の散歩道、草風館HP、北海道歴史人物辞典
45	2	平取町	2	無形	1	現存	5	伝統	16	民話・伝説等	ユーカラ・カムイユーカラ・ ウエペケレ	―	―	―	アイヌの人たちによって伝承されてきた英雄叙事詩、神謡、民話で、昭和59(1984)に町の無形文化財に指定され、上田トシが保持者となっている。	管内概要ひだか
46	2	平取町	2	無形	1	現存	5	伝統	16	民話・伝説等	アペツ（ピントメ）の チャシの伝説	小平	―	―	「昔、チャシを作る勢力がないものはキヤムスプといって、山中に秘密倉庫を作り宝物を隠していた習慣があり、誰も知らないままに死亡したときは土中に朽ちることが多かった。正直な若者のピントメが、山の雪の中に頭のようなものが見え、それを追って近くに行くと消えてしまい、不思議に思いその辺を掘るとキヤムスプがあり宝物がうずまっていた。神様の授かりとして持ち帰ったところ実に珍しいもので家運も盛んとなり、ニシパ（親方）になってチャシを作れる身分となった。」という伝説がある。	平取町史
47	2	平取町	2	無形	1	現存	5	伝統	16	民話・伝説等	ニオイのチャシの伝説	額平川・貫気別川の合流地点より下手	―	―	「十勝地方のアイヌが侵入し、火矢をチャシ跡に射こんで来たため燃え始めたので、アクペンチ（火を意味する）がウンチャシの神ペークンチ（水を意味する）に助けを求めたところ、にわかに天がかき曇り、豪雨が降って火を消し止めた。それでいまでもウンチャシに雲がかかると雨となる。」という伝説が知られている。	平取町史
48	2	平取町	2	無形	1	現存	5	伝統	16	民話・伝説等	義経の巻物盗み	―	―	―	平泉を逃れ、平取にたどり着いた源義経は、アイヌの人ーに耕作などを教えるなどしていたが、その後、平取の指導者の婿になり1子をもうけた。しかし、義経は指導者が秘蔵している巻物を手に入れるため、妻から子供を受け取るとき、誤ったふりをして熱湯に落として殺し、悲しいふりをして家に閉じこもった。そして、妻に巻物の番をしている蛇を捕らせ、巻物を奪って逃げた。 その巻物には、アイヌ民族の文字が書いてあったので、それ以来アイヌ民族には文字が無くなったといわれる。	北の生活文化7北海道の口承文芸
49	2	平取町	2	無形	3	不明・ その他	5	伝統	16	民話・伝説等	ハヨピラ	平取町内	―	―	アイヌのあらゆる生活文化を教えたといわれる神様オキクルミカムイが降臨した、又は、住んでいたところと伝えられるところで、平取市街の外れの沙流川を見下ろす丘にあったといわれる説と二風谷上流の荷負市街地からさらに1000mほど遡ったシケレベというコタンの真向いに会ったとも言われる説がある。	平取町史
50	2	平取町	2	無形	1	現存	5	伝統	17	祭事・芸能	平取アイヌ文化保存会	―	―	―	昭和59((1984)に国の重要無形民族文化財に指定された「アイヌ古式舞踊」の保存団体として、同年に指定され、その伝承を行っている。	浦河町立郷土博物館資料
51	2	平取町	1	有形	1	現存	4	教育	99	その他	平取町立 二風谷アイヌ文化博物館	二風谷	昭和47	1972	昭和47（1972）に設立された二風谷アイヌ文化資料館を発展的に移築、公立博物館として平成4（1992）に開館。 平取ダム湖畔に位置し、野外展示のチセ(家)をはじめ、衣装や漁具、民具や祭事品などの展示資料のほか、口承文化として伝えられるユーカラをビデオステージで実際に聞くことができる。また、平取の歴史や自然に関する研究・調査を行い、その結果を展示や出版物を通して広く普及している。	日高支庁HP、新諸国物語わがまち再発見北海道212文化編、北海道新博物館ガイド

番号	コード										名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名		有形・無形		現存・非現存		大分類		中分類				和暦	西暦		
52	2	平取町	1	有形	1	現存	4	教育	99	その他	シシリムカ 二風谷アイヌ資料館	二風谷	昭和46	1971	萱野茂氏が館長として40年にわたって収集したアイヌ民具をはじめ、世界の先住民族の民具や絵画など計千点以上を展示している。暮らしに息づく思想や信仰をも知ることができる。	日高支庁HP、HOKKAIDO　名馬と海と陽光の里　HIDAKA、北の生活文庫1北海道民のなりたち、平取町HP
53	2	平取町	1	有形	1	現存	4	教育	99	その他	義経資料館	本町	平成3	1991	北海道に数多くの伝説を残し、ハンカン（判官）カムイ（神様）ととして親しまれた源義経にまつわる資料を展示している。 文治5の平泉の変で自決したことになっている源義経が、蝦夷地に渡り日高ピラウトゥリ（平取）に来たあと、家臣らとともに大陸へ渡ったことなどが記載されている資料が残されている。	日高支庁HP、HOKKAIDO　名馬と海と陽光の里　HIDAKA、平取町HP、すずらんの咲く街びらとり
54	2	平取町	1	有形	1	現存	4	教育	99	その他	振内鉄道記念館	振内	昭和62	1987	鉄道用具や振内駅構内の模型等、旧国鉄富内線の歴史を伝える資料を展示している。 公園内にはD51蒸気機関車や客車を展示しており、簡易宿泊施設としても利用できる。	日高支庁HP、平取町HP
55	2	平取町	1	有形	1	現存	4	教育	99	その他	沙流川歴史館	二風谷	平成10	1998	町立二風谷アイヌ文化博物館に隣接し、沙流川流域の自然と歴史に関する学習機会の場を提供するため、沙流川流域の自然等の資料、発掘調査によって遺跡から出土した品ーを可能なかぎり復元して展示。実物大の木彫り動物等を使ったジオラマなどもある。	日高支庁HP、新諸国物語わがまち再発見北海道212文化編
56	2	平取町	1	有形	1	現存	4	教育	99	その他	マンロー博士記念館 （旧マンロー邸）	二風谷	昭和7?	1932?	アイヌの生活風俗の研究のために二風谷に移住し、研究の傍ら医者として奉仕活動に生涯を捧げた英国人考古学者・人類学者のニール・ゴードン・マンロー博士が昭和17(1942)になくなった後、住宅兼病院であった建物が記念館として保存され、現在は北海道大学に寄贈され、北方文化の研究に活用されている。	スズランの咲く町平取、平取町HP
57	2	平取町	1	有形	1	現存	5	伝統	99	その他	義経神社の栗	本町 （義経神社）	不明	不明	源義経が奥州から逃れ北海道に渡り、義経神社の境内付近に居を構えたときに植えられたものと伝えられるクリ。 昭和49(1974)、北海道記念保護樹木に指定された。	北海道記念保護樹木指定台帳